

「はむらの道徳科授業指針」教師の視点④

多面的・多角的な思考を促進させる

現行の学習指導要領から道徳科の目標に、「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」ことが記載されています。

実際には、クリティカル・シンキングを取り入れた授業をすることが効果的であると考えます。

クリティカル・シンキングとは、物事を多様な観点から論理的に考察することで、主に次の三つの要素から成ります。

- ◆ 多面的・多角的な視点
- ◆ 論理的思考
- ◆ メタ認知

授業を構想する際、これら三つに着目をし、子どもが多面的・多角的な視点を持ち、メタ認知を働かせながら論理的に物事を考える学習過程を設定することが重要です。その際、子どもが自覚的な学習を進められるよう、前述の三要素を内言（つぶやき）に置き換え、子どもが自らに問いを発しながら学べるようにします。

- ◆ 多面的・多角的な視点.....「他に考え方はないか。」
- ◆ 論理的思考.....「筋が通って、分かりやすいか。」
- ◆ メタ認知.....「本当にこれでよいか。」



原動力になるもの

福聚山 慈眼寺住職 大峯千日回峰行大行満大阿闍梨 塩沼 亮潤

たった一人でもいい、自分のことを心から思い、心配してくれる人がいたら、どんな困難でも乗り越える原動力になってくれるはずです。私も大自然の山の中で同じような体験をしました。だから、どんな困難でも乗り越えられたのだと思います。

出典：「寄りそう心」 塩沼亮潤著（プレスアート）

※ 深い思いやりの心が、時に相手の生きる原動力となる。心に染み入る言葉です。